



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 11月号
平成 21 年 11 月 2 日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 3 7 1-0 7 5 7
FAX 3 8 1-7 2 4 8

う ち ゅ う

宇宙のたね

学校長 小池 慎一

新型インフルエンザの影響で本校でも4クラスで学級閉鎖を行うことになりました。保護者・地域の皆さまが楽しみにされておられた「地域公開授業参観」も、感染拡大の防止のため、中止にせざるを得ませんでした。ご迷惑をおかけし、申しわけありません。今後も引き続き、「うがい」「手洗い」「睡眠」「栄養」「明るい気持ち」「咳エチケット」といった基本的なことを、確実に子どもたちが実行できるよう指導していきたくと思います。

さて、今年の3月、国際宇宙ステーションに日本人として初めて長期滞在をした若田光一さんが、日本から宇宙ステーションに持って行った「シロイヌナズナ」の種と、その間地球上にあった種と育ち方が違うのかどうかを全国の幼稚園・小学校で調べる実験として、「宇宙のたねプロジェクト」があることを知りました。面白そうな実験だな、子どもたちに夢を贈れるお話しだなと思いましたので、本校もこれに応募することにしました。あたるかどうか分からなかったのですが、応募したことさえすっかり忘れてしまった10月初旬、学校に宇宙のたねの栽培セットが送られてきました。

さっそく栽培セットを組み立て、ポットに土を入れ種蒔きをしました。外見はおもちゃの様なとても小さなポットなのですが、本格的な栽培ができるようになっています。種を蒔いて3日目ぐらいいは双葉が出てきたのが見えました。子どもたちに紹介したら、何人もが見に来てくれました。毎日の変化はほんの少しずつですが、日々成長している様子が分かります。

学校を訪れた方が、学校ホームページの「宇宙のたね」の記事を読んだらしく、「小さいと書いてあったけれど、こんなに小さいとは思いませんでした。」と言うくらい、とても小さな芽が、それでもしっかりと育っています。今はまだ双葉ですが、本で調べると、約2ヶ月で花が咲いて種がたくさんできるのだそうです。うまくすると、年末には花が見られるのかもしれない。

一粒の種が芽を出し、葉をつけ、茎が伸び、花が咲き、種ができる。そしてその種は、最初の一粒子が何百もの粒になり、そして次の世代がそこから始まるのです。こんな自然の営みのすばらしさを子どもたちに感じとらせてみたい、そう思いながら「宇宙のたね」を育てています。

